

令和8年度鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻(修士課程)
入学者選抜試験 論述試験出題の意図

A. 共通問題

今後の国民の健康づくりを担う人材となるべく、本学の修士課程に入学しようとする受験生にとって、わが国の身体活動・運動分野における国民の健康づくりのための取組を理解するためには、身体活動の定義は必須の知識であろうと考えたため問うこととした。

B. 選択問題

問題番号1 運動処方を行う上で運動強度(負荷量)は重要な要素のひとつであり、心拍数はその指標として多く用いられている。このことから、健康づくりのための運動指導者もその理由と運動強度の計算法は、必ず理解しておくべき事項であるため問うこととした。

問題番号2 日本における地方自治体のスポーツ行政組織と地方スポーツ推進計画は、地域スポーツの振興方策の立案や実施に関わる基本的な制度である。今後、体育学を専攻しようとする受験生にとっては、知識と理解が必要な事項と考えたため問うこととした。

問題番号3 バランス能力は、特にアスリートにおいては、パフォーマンス向上や傷害予防において重要な能力である。バランス能力には、重心動揺の大きさ、安定性限界の大きさ、重心のブレの修正能力など多くの要素が関わっており、それぞれに応じた評価法が存在する。今後、体育学を専攻しようとする受験生にとっては、バランス能力に関する知識と理解は重要と考え、問うこととした。